



Scope of practice of Japanese primary care physicians and its associated factors: A cross-sectional study

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2025-05-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 樋口, 智也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/0002000406

論文審査の結果の要旨

プライマリ・ケアにおける包括的診療の重要性が指摘されており、診療範囲が広いほど、医療費の削減や救急受診の減少などに関連することが報告されている。日本では主に内科診療所の医師がプライマリ・ケアを担うが、その診療範囲や関連要因は十分に明らかにされていない。本研究では、日本の内科診療所医師の診療範囲を明らかとし、関連要因を検討した。

8つの臨床領域、78の臨床活動、23の手技に分類された全109項目のリストからなる質問票を作成し、静岡県の内科学標榜診療所1,191施設の代表医師または最も幅広い診療を担当している医師を対象に、2023年に調査を実施した。本研究は浜松医科大学生命科学・医学系研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号：23-118）。回答率は33.0%（389名）で、「実施している」（日常的に実施（毎日～週1回）、時々実施（月1～2回）、たまに実施（年数回））項目の総数を診療範囲スコアとした。診療範囲スコアの平均は60.4であり、小児・思春期医療、女性医療、在宅医療、緩和ケア、メンタルヘルスの診療頻度が低かった。診療範囲と最も強く関連したのは、幅広い診療への選好（ $p < 0.001$ ）、日医かかりつけ医機能研修制度修了（ $p < 0.001$ ）、ローテート研修経験（ $p < 0.001$ ）であった。加えて、若年医師、へき地診療経験、外科系専門医、診療所の医師数や診察患者数の多さ、地方での診療が広範な診療範囲と関連していた。プライマリ・ケア医の診療範囲を拡大するには、幅広い診療を選好する医師に対して、内科に限定しない広い領域をカバーする卒後臨床研修と開業後に生涯学習を継続することが重要であることが示唆された。

審査委員会では、診療範囲の選好と実際の診療範囲の関連を示した初めての研究である点を高く評価した。以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 中村 和正

副査 渥美 生弘 副査 安田 日出夫